



学校だより 第7号

糸満市立三和中学校

校長 仲程 俊浩

令和6年10月1日発行

糸満市字真壁519番地

098-997-2104

《教育目標》

ふるさと三和を愛し 主体的に学び続け お互いを尊重し合う 心身ともに健やかな生徒

読書の秋・・・

～ 体験の秋へ～

うだるような暑さも和らぎ、秋の気配が深まってきました。気候がよく、晴れ間が多い10月・・・。秋といえば、「○○○の秋」とよくいわれます。三和中の皆さんはどんな「秋」が思い浮かびますが。「スポーツの秋」「食欲の秋」でしょうか？「読書の秋」もありますね。

皆さんの体にとって食事の栄養が欠かせないように、「心にも栄養」が必要です。そのひとつが「読書」だと私は思います。読書を通して新しい知識や情報を得たり、登場人物に共感したり、逆に自分とは違うなあ～と感じたりする等、いろいろなものの見方や考え方、感じ方ができるようになります。穏やかな気持ちになったり、時には喜びや感動、驚きも与えてくれます。

でもこれらは読書でなくても、テレビや映画、漫画でもできます。ではテレビや映画と読書の大きな違いは何だと思いませんか。それは本の内容（場面）が自分自身の想像力で頭の中に思い浮かぶことではないでしょうか。最近読んだ本を思い出してみてください。恐らく思い出すのは「文字（文章）」ではなく頭の中で想像した場面の「映像」だと思います。読書は想像力の連続です。数学の授業で問題文を図形や表、グラフに置き換えて考えるのは正に想像力です。こう考えると学ぶことに想像力は欠かせないのかもしれない。

文章から想像することは、生徒皆さんの頭の中にある、これまでの知識や体験、当てはまるものや似ているものを取り出す作業だと言えます。より豊かに想像することは、たくさんの体験が欠かせません。

いろいろな「もの」「こと」「ひと」に触れる、地域行事に参加する、博物館・美術館で本物を感じたりすることが想像力につながります。

この秋、「読書の秋」のためにも「体験の秋」として、いろいろなことに挑戦して「想像力」の引出しを増やしてみたいはいかがでしょうか・・・。

読書の秋・・・

～ 読み聞かせの会 さしぐさ～

本校では、さしぐさの会の皆さんによる各教室での朝の読み聞かせが、毎月1回15分程度実施されております。今年で22年目を迎え、永年にわたり、本校の読書活動推進に大きく貢献した功績により、令和6年度「子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣賞」を受賞しました。おめでとうございます！読み聞かせは基本的に映像が無いので、子供たちは自分の頭の中で映像を思い浮かべながらお話を聞くので、「想像力」「発想力」が育まれると同時に、



整った心で一日をスタートさせることができ、落ち着いた学校生活を送っています。

読書・読み聞かせは「感じる力」「考える力」「表す力」を育むとともに豊かな情操が芽生え、すべての活動の基盤である教養・価値観・感性を、生涯を通じて涵養していく上でも大切です。

「読書」「読み聞かせ」・・・この秋、いろんな本に触れ、誰かを思いやれる人間、新しい考え、自分とは違う価値観との出会いを通して自分の世界観や引き出しを増やしていけたら素晴らしいですね。

優秀賞！！

♡♡ おめでとうございます ♡♡

「第4回沖縄県中学校英語スキットコンテスト」（主催：沖縄県中学校英語教育研究会）が7月13日（土）に那覇市で開催され、**島尻地区代表の三和中学校が見事、優秀賞に輝きました。**初めての受賞となります。

◇出演者

山城ひめのさん（3年）
兼元紗奈さん（2年）
池野愛菜さん（2年）
山城心寧さん（2年）



◇音響

玉城莉宇さん（3年）
呉屋百香さん（2年）



本大会は、出演する生徒が自ら場面設定・発表形式を考え、台詞はすべて英語によるスキット（寸劇）で、出演した皆さんは『The Message to the Future』と題して、平和問題について考え行動しようという内容を見事に演じ、発信・表現することができました。

【審査員の講評】『何よりもストーリー性がしっかりしていました。発音や演技力も素晴らしく高いレベルでした』『聴き手を意識した表現力とメッセージ性がよかったです。発表順が（12組中）1番目で緊張もあったと思うが最後まで見事演じ切ってくれました』

～生徒たちと頌子先生の感想・思い～

《山城ひめのさん》私がこの役の立場になったらどんなことを考えて行動するのかを考えることに苦戦しました。島尻地区中文祭でも強い気持ちをもって挑みたいです。

《兼元紗奈さん》意味を理解した上でのスキットを行うこと、気持ちを込めた演技、観客の目に焼き付くスキットを意識しました。これを日常的なコミュニケーションに変え、幅広い意見交流の場も作っていきたいです。

《池野愛菜さん》“どうやったらもっと良くなるのか”を常に意識し、互いに演技力を高め合ってきました。仲間とのコミュニケーションを通し英語を楽しむことができました。

《山城心寧さん》自分の声を録音し、家族を相手に練習に励みました。先生や友達と場面の雰囲気合う声のトーンや表情を確認しながら納得のいくスキットを目指しました。

《玉城莉宇さん》音響を担当し、妥協せずに取り組みました。この経験を通して、人が気づかないようなことでも、こだわりを持って取り組むことの意義に気づくことができました。

《呉屋百香さん》舞台に出ている4人はとてもかっこ良かったです。音響を担当しましたが、達成感がいっぱいあって肩の荷が下りました。地区中文祭も頑張っていきます。

《宮城頌子先生（指導&相談役&大会引率）》生徒達の意欲・主体性・向上心に日々感心させられました。4か月間のシナリオ制作と3か月間の実践練習を経て、戦争の悲惨さ・平和の尊さのメッセージを強く聴衆に訴える素晴らしいスキットを創り上げてくれました。